

「沼のほとり」

発行責任者 遠藤織太郎(TEL:04-7182-0387) 編集責任者 國方幸生(TEL:04-7184-3385)

事務所:我孫子市白山二丁目13番5号

e-mail:info@teganuma-trust.jp

ホームページ:http://teganuma-trust.jp/ ブログ:http://blog.goo.ne.jp/teganuma-trust/



(根戸城址の桜)

ケビン・ショート氏の「ケビンの里山自然観察記から16年」の講演をきいて

遠藤 織太郎

講師のケビン・ショート氏は印西市に住み、ナチュラリストとして有名であり、東京情報大学の教授でもある。この著書「里山自然観察記」は1995年に出版され、原生自然の少ない日本の地域において、その地域の生物多様性を支えているのは、その地域の里山自然であり、生態系の素晴らしさと魅力について余すところなく書いている。千葉県北総地域はその典型的な例だとし、日本中にも共通する見事な里山自然が存在することを強調している。

ケビン氏は今でもカントリーサイド・ウォーカーとして、お住まいの千葉ニュータウンをベースとして、周辺のカントリーサイド(里山=田園風景)・ウォーキングを続けている。ウォーキングに出かけるときには、七つ道具を持って行くそうで、バックパック、その中にはカメラ、双眼鏡、ルーペ、ノート、図鑑等、これにケビン用フリース・ジャケットや帽子、シューズを整え、いざ出発となるようだ。ところで、「里山」という言葉はケビン氏が実は日本ではじめて使ったもので、以来日本人は改めて里山保全の必要性や人と自然との共働(共生)で長い間につくってきた文化財であることに気づかされ、残った里山の保全・保存運動が一気に触発されてきたといっても過言ではない。出版以来、16年経過する中で、里山はどんどん日本人の価値観から見放され、雑木林も谷津の湧水も田んぼの水路さえ、蛙も住めないコンクリート水路に改修され、里山の生態系は失われてきた。乾田化と農薬や化学肥料多投入はこれに拍車をかけた。同時にそこに受け継がれてきた歴史や文化も消えようとしている。そうケビン氏は訴えている。アメリカ人のケビン氏のこの歎き、そこに住み続けてきた日本人の一人として胸が痛くなった。私たち日本人が里山の素晴らしさ、大切さ、価値を忘れてしまっていることに全ての原因があることに気づかなければいけないのだと強く自問自答した。

ケビン氏は続ける、里山は持続的であり、持続性という概念を基本とし、絶えず人間が手を加えることにより、自然と森、所によって林、雑木林と湧水や田んぼに連なる豊かな生態系をつくり、一方で古代から続く歴史や文化が織りなす豊かな生活圏をつくり出すのだと！ケビン氏は壊してしまった里山を再生する自然と文化が織りなすカタログづくりをして、その上で生涯この印西に住み続け、描いた里山プロジェクトをナチュラリストとして追求し続けたいと結ばれた。

私はケビン氏のところに行き、感謝を述べ、名刺を交換して我孫子で是非再会したいと、しっかり握手をして別れた。



遠藤理事長に講師をお願いし、1月28日(土)と2月11日(土)の両日、けやきプラザ7階研修室で、トラストサロン公開講座「有機(生態系)農業基礎講座」[]、[]を開催致しました。講座は第1回「基本編」に会員19名、一般36名、第2回「雑草・病害虫対策編」に会員20名、一般28名の方々が参加されました。極寒の時期、夜間にも拘らず、野田市、船橋市、松戸市等、遠方からも参加者がおり、有機(生態系)農業への関心の高さが窺えました。

第1回講座は有機農業に高い関心をもつ受講生で満席になりました。冒頭、先生から、地球上に人類が誕生して20万年、農業を始めたのは1万年位前からのこと。昭和36年頃までは有機物による物質循環農業が行われていましたが、化学肥料や農薬の開発による近代化農業の普及が、環境(生態系)への影響や土壌の疲弊を招来することになりました。手賀沼トラストでは設立以来、自然と共生する有機(生態系)農業を目指して活動してきました。との話がありました。

- ・有機(生態系)農業の基本:動物の遺体、残渣、堆肥、雑草、里山利用による有機物を微生物によって分解すること。
 - ・作物栽培の基本条件:光、温度、水分、酸性土、土の性質等、様々な要素がある。日本列島は南北に長く、四季があるので、世界各地から渡来した作物の導入が可能であった。
 - ・土作りの基本:作物の生育に必要な栄養素は多量養分元素(9元素)、微量養分元素(7元素)がある。良質な堆肥や有機質資材を安定的に土壌に投入することが重要。
 - ・作物栽培カレンダー:土づくり、播種、定植、生育管理、収穫のカレンダーをつくり、栽培管理を行うことが重要である。
- 等を学びました。

第2回講座は、昨年発生した福島原発事故での、放射能物質飛散による農産物への影響について解説がありました。放射性物質の飛散状況、暫定基準、新基準の説明。農産物と食品への放射性物質の移行、食品から人体への移行、農業上の対策について解説して頂き、大変参考になりました。

農業に雑草はつきもの、「上農は草を見ずして草をとる」との格言がありますが、雑草はプラスにもなります。また、病害虫対策では病状の診断や病気の出にくい野菜作りと、何よりも日常の観察が大切であることを学びました。農業について、何も知らなかった私には、今回の講座を受けて幅広い知識を学ぶことができ、作物栽培の楽しみ、収穫の楽しみと実益を求めて農教室で勉強したいと思いました。

(谷口勝秋 記)

活動報告 ハス田・根戸城址管理

(環境保全グループ)

2月1日(水) 8:30~11:30 (参加者15名)

厳しい寒さが続いています。この日集合した会員の方は15名。ハス田に向かう前に、トラストとしては発足以来13年目にし、初めて見晴台下のトンネルの清掃を行いました。1月の定例会に北側斜面の伐採を行った際、トンネルを通ったのですが、落葉やゴミが散乱していて、「T副理事長とも「今年は、定期的に清掃や美化活動をしようか」と話をしたのがきっかけです。

トンネルの掃除を終えてハス田に移動。今日の作業は2つです。枯れたハスの葉や茎を刈り込むのと、隣接地にハスの根が伸びて行かないようにするための波板の打込みです。波板班はエンピ(細いシャベル)を使って境界の土に切れ込みを入れて、プラスチックの波板を器具で固定し、木槌で叩いて埋め込んで行きます。足場が悪いのと力を均等に入れて叩かないと波板が割れてしまうので、体力と神経を要する作業でした。概ね1/4程度終わったところで、力尽きました。刈込み班も泥だらけになりながら、ほぼすべての枯れたハスを刈り込むことができました。

(原田泰夫 記)

2月12日(日) 8:30~12:00 (参加者15名)

トンネル歩道の清掃を行ったあと、ハス田へ移動。前回に引き続き波板の打込みと肥料散布を行いました。

その後、2班に分かれ、根戸城址内側の落葉集めと、根戸城址、ミカン山、ハス田、田んぼ、畑地の放射線量の測定を行いました(結果は3月中旬、茨城大学農学部小松崎准教授にお願いした、土壌の放射線量測定結果と併せて事務局から報告)

(寺田太郎 記)

野生のミツバチを捕まえると言っても1匹ずつ捕まえるわけではない。一網打尽にするのである。ミツバチは春になると分蜂(巣分れ)する。母女王は娘を何匹か生んで、働き蜂を半分ほど連れて新居に引っ越す。長女はまたその半分を連れて飛び立つ。次女もまた3女を残して、という具合に3回ほど分蜂する。そして木の洞などを探して巣を作るのであるが、穴があいていれば何でもいいというわけにはいかない。秋口になると天敵スズメバチが襲ってくる。外からの侵入を許さず、育児に十分な広さをもった住まい。昨今、快適な住まいを手に入れるのが難しいのは人間だけではない。そこにつけ込むのである。セコムのセキュリティつき3LDK、といった感じの巣箱を作り、眺望のよい南に開けた場所などに何くわぬ顔で置いておくのである。

あとは御一行様のご入居を待つのだが、ただ待っているだけでは他の物件に行かれてしまうかもしれない。そこで、春の住宅フェアをやってお客様を呼び寄せるのだ。ここで絶大な力を発揮するのが金稜辺(きんりょうへん)である。中国南部原産の蘭で、その花は女王蜂のフェロモンに似た匂いを発する。それを巣箱のそばに置いておくのである。すると、

住宅展示場の美人コンパニオンに惹きつけられるお父さんたちのようにハチが群がってくる。[注]ときには花全体を覆い尽くすほどびっしりと群がる。そして、ふと巣箱に気づく。おや、ここによい家がある。コンパニオンも美人だし、ここにしようか、というわけである。

さて、鬼に金棒、蜂に金稜辺、と勇んで捕獲にむかう私。というところで、以下次号。

[注] 実は、金稜辺に群がる働きバチはすべて雌。鼻の下を伸ばしたお父さんではない。女王は分蜂するや天空高く飛びたち、空中で何匹もの雄と交尾し一生分の精子を貯めこみ、生涯に100万個以上の卵を産み続ける。この有精卵は雌の働きバチとなる。雄は春先に無精卵から生まれ、ひたすら女王との交尾を目指す。交尾できるのはわずかに10匹ほど。思いを遂げた雄の性器は破裂し、死亡。嗚呼！(人間の雄は生き残り、引き続く煩惱に責めさいなまれる。はたしてどちらが幸せか?)失敗した雄はおめおめと巣に戻るが、無為徒食、働きバチ(こいつらはみな憎き雌です!)に冷遇され、やがては野垂れ死に。嗚呼！英語で雄バチを「DRONE」というが、日本語訳は「怠け者、役立たず」(まるで、定年退職後の我々ではないか)なべて雄は哀しき生きものなのである。

我孫子市消防本部 出前講座「普通救命講習」を実施

昨年、11月2日(水)に開催された安全管理委員会において、平成23年度の安全管理方針が「**会員の安全意識の向上**」とすることが採択されました。この方針の具体的展開として、活動中の事故発生に対応するため、消防本部の出前講座「普通救命講習」を実施することが承認されました。

2月19日(日)9時から12時まで、我孫子西消防署会議室において、理事、監事、運営スタッフ、一般会員の方々24名の参加を得て、「普通救命講習」を実施しました。講習は心肺蘇生法の手順、AED(自動体外式除細動器)の操作手順、止血法等、消防本部救急隊員の指導の下、実技を中心にした実践的なものでした。受講者の皆さんは、最初はややためらいがちでしたが、勇気を出して真剣に取り組み、最後の試験も無事クリアーし、全員終了証の交付を受けることが出来ました。(事務局 國方 記)

【受講者の感想】

- ・このような講習を受けたのは初めてでした。大変参考になりました。救急車が到着するまでの間、応急処置を迅速に行うことの必要性を痛感しました。日常生活でも十分役に立つ内容だったと思います。
- ・救急隊員の方々も尊い命が一人でも助かってほしいとの思いから、真剣に指導して下さったと感じました。
- ・とてもためになりました。AEDの役割と使い方が分かったのが、最大の収穫でした。
- ・応急手当が如何に大事か、そして、それには勇気を出さなければ出来ないと感じました。
- ・一度声を出すと、次から大きな声が出るようになりました。「勇気をもって」という標語が実践で大事だと思いました。
- ・指導していただいた救命に関わる処置は本当に大事なことばかりでした。イザ、という時の予備知識も持っていなかったことが恐ろしいと思いました。応急手当を知っていることは、トラストの活動の安心にもつながると思いました。
- ・人命救助が如何に大変かを改めて実感しました。いざ、傷病者に直面したとき、即対応できるかという自信がありません。一連の救命活動は時間との戦い、勇気をもって行動したいと思います。
- ・講習を受けなければ、気後れや気恥ずかしさから、救急車を呼ぶ対応しか出来ないかもしれません。講習を受けてよかったと思います。
- ・「命のリレー」の逸話、初めて知りました。一市民の声の大きな力を感じました。また、直に対応した福井県知事も偉いと思います。この逸話を大いに活用して、救急救命の輪の広がりを期待したいと思います。

以上

2 月度 活動報告

活動日	区分	担当部門	参加者	活動内容
1/28(土)	サロン	交流事業 G	55 名	公開講座「有機(生態系)農業の基礎」(第 1 回)
1/30(月)	会議 会議	農地保全 G 事務局	7 名 2 名	H24 年度計画 ちばの WA! 東葛本舗シンポジウム、マッチング会に参加
2/1(水)	定例活動	環境保全 G	15 名	トンネル周辺清掃、ハス田管理(波板打込み、枯れ茎刈取り)
2/6(月)	会議	事務局	2 名	我孫子市農政課表敬訪問
2/11(土)	会議 サロン	農事・農教室 G 交流事業 G	16 名 48 名	第 3 回スタッフ会議(農教室ガイダンス検討等) 公開講座「有機(生態系)農業の基礎」(第 2 回)
2/12(日)	定例活動 臨時作業	環境保全 G 農事、環境 G	15 名 6 名	トンネル周辺清掃、ハス田管理(波板打込み、施肥) 根戸城址、ミカン山、ハス田、田んぼ、畑地放射線量測定
2/19(日)	出前講座	事務局	24 名	我孫子市消防本部「普通救命講習」
2/23(木)	会議	交流事業 G	8 名	H24 年度方針、H23 年度の反省
2/26(日)	ハチ部会	環境保全 G	13 名	H24 年度計画説明、蜂箱補修、ハンドクリーム、ホットケーキ作成

3 月～4 月度 活動計画

活動日	区分	担当部門	活動内容	留意事項
3/2(金)	視察	農地保全 G	体験型市民農園「さくら農園未来塾」	
3/3(土)	臨時作業	農事 G	施肥、暗渠清掃	
3/3(土)	説明会	事務局他	農教室新規入会者説明会(18 時～)	スタッフは 17 時集合(けやきプラザ 7 階)
3/4(日)	定例活動	環境保全 G	根戸城址の枯葉の撤去	
3/10(土)	開講式	農事 G	農教室開講式、堆肥作製作業	スタッフは 8 時 00 分集合
3/18(日)	定例活動	環境保全 G	根戸城址の枯葉の撤去、ハス田の施肥	
3/20(火)	サロン	交流事業 G	山遊亭金太郎さん落語会(六角堂)	14 時開場、木戸銭 1,000 円、要申込み
3/24(土)	定例作業	農事 G	ジャガイモ植付け、田んぼ施肥他	
3/25(日)	会議	事務局	H23 年度第 9 回定例理事会	
3/28(水)	講習	環境保全 G	竹教室	9 時 00 分～12 時 00 分 日暮会場
4/1(日)	定例活動	環境保全 G	樹林地管理、ミカン山管理	放射線量測定(2 月測定値との比較)8 時 30 分
4/10(火)	臨時活動	環境・交流 G	丸井福祉会受入れ準備	餅つき準備、作業段取り検討
4/11(水)	定例活動	環境・交流 G	丸井福祉会受入れ	管理地、活動内容説明、植樹作業等
4/14(土)	定例作業	農事 G	稲の種子予措、堆肥切返し他	
4/21(土)	定例作業	農事 G	稲の播種、サトイモ、ヤツガシラ植付け	
4/25(水)	講習	環境保全 G	竹教室	9 時 00 分～12 時 00 分
4/28(土)	定例作業	農事 G	トウモロコシ、ニガウリ播種	
4/29(日)	会議	事務局	H24 年度第 1 回定例理事会、H24 年度安全管理委員会(けやきプラザ 18 時～)	

活動日程に変更がある場合は HP の「お知らせ」テロップでご案内します。

お問い合わせ先：TEL:04-7184-3385(國方)、04-7131-3450(吉田)宛にお願いします。

六角堂落語会のお知らせ！

お待たせしました！毎年恒例の「六角堂落語会」今年も 3 月のお彼岸の中日に**金太郎師匠**にお出まします。皆さん、お墓参りは早めにすませ、ごぞって六角堂にご参集ください。

暑さ寒さも彼岸まで。みんなで笑って、本格的な春を迎えましょう！

日時:3 月 20 日(火) 14 時開場 14 時 30 分開演

場所:六角堂(我孫子市白山 1-9-26) 駐車場無し

会費:1,000 円/一人 (小学生以下無料)

定員:50 名(一般の方も参加できます) **申込みはお早めに**

申込み・問合せ:坂巻(携帯 090-1052-8284)

e-mail: info@teganuma-trust.jp

編集後記

・法人格取得後、はじめての事業年度末を迎えます。来年度の事業計画、活動予算の策定、所轄庁への報告や情報開示資料の報告書、決算書の作成など慌しくなってきました。

・厳しかった寒さも漸く峠を越え、明るい春の陽ざしが感じられる頃になりました。3 月 10 日には、新しい仲間を迎え、農教室が開講します。大学の秋入学が話題になっています。でも、自然界は春が芽吹きをの時期、新しくスタートを切るのに相応しい時は……？

・本号の一面の写真は、一寸早いのですが、根戸城址の満開の「サクラ」にしました。遠藤理事長のリポートを読みながら、里山の大切さを痛感しました。(國方記)